

第3回 相模川ふれあい巡視 H21.10.31

意見・提案は原文のまま記載してあります。
一部、読み取れない部分は「」としてあります。
ご発言で頂いた意見は、意見内容を要約して記載しています。

意見交換 グループ等	付箋紙の 色分け (カテゴリー)	意見内容
A	利水	磯部 / 小沢等、頭首工の良い管理、将来像はどうなってゆくのか？
A	環境	上依知広場の整備は、今より面積を広げないでほしい。 整備計画作りの議論に乗せる。
A	環境	昭和橋左岸のグラウンド拡張部分の整備の進め方に疑問がある。 グラウンドの砂利をはがし、元の良い河原に戻してほしい。
A	その他	不法投棄をなくすためには、近隣住民の協力が必要だと感じた。 河川管理者は、そのような協力関係の構築にも力を入れるべきと思う。
A	その他	河川敷は広いので、自然環境を残しつつ、グラウンド等の利用を 行っていけばよいと思う。
A	その他	スポーツ広場が(野球場等)河川敷の中に多過ぎる。
A	治水	河原の水辺に近いところまで車が入っている。駐車場で止めるべき。
A	環境	上流部を見て、下流部とは全然違うなと思った。整備計画の策定に 当っては、住民の要望もあると思うが、現状を踏まえて ゾーニングした方がよいと思う。
A	環境	不法投棄を防ぐためには、車の乗り入れを禁止するべきだ。 ただし、河川敷を利用する人のために駐車場を整備する必要もある。
A	環境	磯部より上流の空間管理は、現状の自然系を重視し、区分A、Bは 増やさない。これ以上の施設利用はやめる。
A	その他	ゾーニング計画を考えるべき！市民の意見、提案を聞いて！
A	その他	高田橋は広いスペースを駐車でしか利用していない。
A	その他	車の乗り入れを防止する。
A	その他	吉野川川の学校のように、「川で遊ぶ文化」を大人も子供も 身につけ、川のファンを増やす。
A	その他	地図に民有地を色分けして、現状を示してほしい。
A	その他	土砂管理懇談会の情報を共有して、整備計画を作ってゆく。
A	環境	河川敷の民有地は、環境ルールを作成する。
A	環境	カワラノギクの成育環境、河又さんの努力、継続要す。
A	環境	自然環境を極力保全していきたい。
A	環境	神沢河原付近のすばらしい自然を何とか残してほしい。
A	環境	神沢の生態系を復元する積極的な事業を行う。洪水で水が かぶる丸石河原を取り戻す。
A	環境	なぜここ十数年間で河原の樹林化が進んだのか？ 解明して、対策を考える。
A	環境	民有地を買い上げ又は市民と話し合い、自然を残してほしい。
A	環境	カワラノギクの種を他の地域に蒔いてみたらどうか！
A	利水	川の水量を増やしてほしい。節水も進める。
A	利水	水量をもう少し多くほしい。
B	治水	今ある施設を自然に戻す改善ができないか。
B	治水	全体的にかなり川の管理が良くなってきていると思った。
B	利水	アユのころがし釣りを禁止すべきです。毎年6月から10月まで、 散乱する釣針が危険で多数の市民が川に近寄れない。 多額な漁業補償を受けているのだから、禁漁するのが当然だと思う。

第3回 相模川ふれあい巡視 H21.10.31

意見・提案は原文のまま記載してあります。
一部、読み取れない部分は「 」としてあります。
ご発言で頂いた意見は、意見内容を要約して記載しています。

意見交換 グループ等	付箋紙の 色分け (カテゴリー)	意見内容
B	利水	神沢河原の自然を残す対策をたててください。
B	利水	河川敷を利用した運動場等が多過ぎると思う。人口割り等を考慮して、自然回復を図るべきだと思う。
B	環境	神沢河原が一番自然度が高い。保護区のような形でやってもらいたい。相模原市自体が積極的に。
B	環境	カワラノギクの唯一の自生地を守ってやっていてもらいたい。
B	環境	代替のきかない種の保全。
B	環境	下水道の整備等により水質が良くなった。
B	環境	良い環境をどう維持、保全していくかが課題。
B	環境	魚がいなくなった。(シジミ、カジカ、ナマズ) コイくらいしかいない(メスのみ)
B	環境	子供が河原で遊ぶような場所がほしい。
B	環境	最近、流域の環境はすこぶる良くなった。
B	環境	現状維持として車止めを検討。
B	その他	ラジコン等については、マナーがあると良い。 (規制、おい出しは難しい)
B	その他	以前に比べてゴミがなくなった。
B	その他	自然に戻す形で市民と合意形成していく。
B	その他	アユのころがし釣りをやめてもらいたい!(危険!)
B	その他	運動場が多過ぎる。多過ぎる分は自然に戻す。
B	その他	人の出入りが自由である。
B	利水	流量を確保するためには、利水者との協議が必要。 (避けて通れない)
B	環境	車止めをして駐車場を2ヶ所位に定めた方が良い。
B	その他	広い河原があり、多くの人が様々な目的で利用している。 ゾーニング等により目的別に利用すべきである。
B	その他	河原が広い。
B	その他	利用の規制は難しいと思われるので、ゾーニングやサインの設置により、マナー向上を図るべき。(ゴミ減少にも効果ある)
B	環境	河岸段丘ぎりぎりまで人家がせまって利用されている。 (いたしかたない)
B	環境	地下湧水、ワンド等、自然環境の善良な場所を残す努力をしたい。
B	環境	河原ではない様に樹木化している?
B	環境	神沢河原の自然を残したい。
B	環境	飛行機、モトクロス等、もともと存在を予想しない遊戯の規制を考える。
B	環境	残存する良好な自然であり、保全の方向で検討してもらいたい。 湧水等復元は不可能。
B	環境	カワラノギクの植栽の成功を喜びたい。自生の保存も十分に お願いいたします。
B	その他	自然を満喫する場として、環境教育の場として重要。
B	環境	電光掲示板は不要。

第3回 相模川ふれあい巡視 H21.10.31

意見・提案は原文のまま記載してあります。
一部、読み取れない部分は「」としてあります。
ご発言で頂いた意見は、意見内容を要約して記載しています。

意見交換 グループ等	付箋紙の 色分け (カテゴリー)	意見内容
B	環境	セメントのスタンドはいらない。
C	利水	農業用水の利用、生物多様性を確保する視点で、冬期間の通水検討が必要。
C	環境	松の木の植林をする。防風林の役割をしている。
C	環境	上依知松林は保全していく。
C	環境	航空写真で見ると、河川のすぐそばまで住宅地が迫っている。川の中だけに自然が残されている中で、環境保全に立った施策の実行が必要。これ以上悪化させない。
C	その他	落書きがトンネルと手すりと壁に描かれている。やめるべきだ。
C	治水	相模川の高田橋付近の上水の取水所があった所等、良い水があるので地下水、伏流水等を馬入等の下流の水質を良くする方法を考える。
C	その他	すばらしい河原と川の景観。グラウンドスポーツ広場も自然に溶け込んでいた。
C	その他	高田橋付近の河原の利用に制限がなく、河原が荒れている様に見えた。
C	その他	広い河原、駐車場化している。一定の規制が必要。
C	環境	野鳥観察の場所にラジコンが飛んでおり、腹立たしく思えた。
C	環境	カワラノギクの復元、うまくいっていると思うが、人の手により守られている限り、持続的に守るのは難しい。どう持続させていくか考える。
C	環境	湘南小のカワラノギクの取り組み重要。自然離れが進んでいる現況を見るに、ソフト事業の推進が必要
C	環境	バイク等、モーターの付いたものは利用個所を限定すべき。
C	環境	カワラノギクの復元活動は継続していただいて、様々な場所で見れるようにしてほしい。
C	環境	中流域の第一級の自然環境、自然環境保全地区指定が必要。同様に他の重要拠点についても整備計画の中で具体化すべき。
C	環境	上流ならではの自然を見ることが出来、大変良かった。
C	環境	カワノギク付近は、自然が豊かな場所を残したい。このエリアを多摩川のように生態学術研究所が管理するゾーンとしてはどうか。
C	環境	河原が乾燥しないよう節目節目において放流ができれば、よりすばらしい。
C	その他	神沢のモトクロストライアル、すみ分けをしてある。他の地域もすみ分けすれば共存できる。
C	その他	相模川ふれあい懇談会の目標の一つである「泳げる川づくり」の場が神沢河原付近や小倉橋付近にあった。
C	その他	区域を選定し、子供たちが安全に水辺にふれあえる場の創出に努めてほしい。
C	環境	瀬と淵が連続して流れる昔の川がなくなっている。川遊びのできる川づくりが重要。

第3回 相模川ふれあい巡視 H21.10.31

意見・提案は原文のまま記載してあります。
一部、読み取れない部分は「 」としてあります。
ご発言で頂いた意見は、意見内容を要約して記載しています。

意見交換 グループ等	付箋紙の 色分け (カテゴリー)	意見内容
C	環境	水生生物が多くワンドもあり、自然環境が素晴らしい。 保全して守っていくべきである。
C	環境	カワラノギクがまとまって生えている。保全、再生が望まれる。
C	利水	城山ダムの下まで行ってより良い川づくり、自然環境の復元を 守るためには水利用の在り方の見直しが必要。 一定量の水量確保が必要。
C	環境	河原で遊んだ体験を持つと、子供は川を汚さない。 子供たちが川に触れ合える仕組みをつくる。
C	その他	城山ダム等、現在アオコの問題がある。ダムは常に 流れがある必要がある。アオコが飲み水として出ないようにする。
D	環境	きれいな川と汚い川(相模川)を対比して市民に見せることで インパクトを与えたら良いと思う。
D	環境	川遊びの定義 ・泳ぐ(プール場) ・あみで遊ぶくらい どれ？
D	環境	川の伏流水。
D	環境	役所任せにせず、自分たちの力で維持させていかなければならない。
D	環境	左岸同様に右岸にも、散歩道、自転車道の長距離道路の整備要望！
D	その他	川に関心のある人、ない人の差が極端。ない人に川の魅力を どう伝えていかないと空論になってしまう。
D	その他	空論ではなく、何か行動を起こすべき。
D	その他	右岸にサイクリングロードを造成してほしい。
D	その他	河川整備計画を運用していく。
D	その他	整備計画をつくるとともに、その後、市民が河川を 見ていくことが大事ではないか。
D	利水	伏流水で遊べる場所がほしい。
D	環境	磯部頭首工上流はまだゾーニングが未定。 生物多様性に配慮した区分が必要。
D	環境	磯部頭首工上流は自然保全のゾーンを多く残してほしい。
D	その他	相模川一級河川は反復的に河川のあり方、見方の検討要。
D	その他	河川管理者と流域自治体が 河川敷禁止統一共通ルール策定する時期。
D	その他	松林、コンクリート堤防(模範工) 河川内の一部までの整備要望。
D	その他	両岸に、川を見ながら歩ける遊歩道を川の全域に作る。
D	その他	整備計画の範囲にダムも含めなければ、水質は良くならない。
D	利水	水質良化の協議会設置希望。
D	環境	「相模川を宴する会」の拡大。沿川住民一体の河川美化運動の 仕組みづくりが必要。
D	その他	自由使用者のマナー・ルールの徹底、周知。
D	利水	相模川の河川敷はゴミの山。川は泣いている。
D	利水	政令都市相模原市の心の相模川を美しくする工夫を...

第3回 相模川ふれあい巡視 H21.10.31

意見・提案は原文のまま記載してあります。
一部、読み取れない部分は「 」としてあります。
ご発言で頂いた意見は、意見内容を要約して記載しています。

意見交換 グループ等	付箋紙の 色分け (カテゴリー)	意見内容
D	環境	三段滝公園の歩道フェンス金属のようだが、野鳥等が嫌がらないか、景観等からにも擬木の方が良いのではないか。公園に植木(ふちどり)の植え込みは外来種のウツギではなく、自然にマッチした在来種の植え込みが良いと思う。花壇もサルビア等の外来種ではなく、日本の花を植えたらどうか？外来種は種等が自然に飛び出して増えてしまう。
D	環境	ラジコンはやはり私有地内と言えども規制する方向にしてほしい。
D	環境	未永く残す...母なる相模川。美しく清しくあれ。
D	環境	散策中の犬の放し飼い、又はフンの放置は、飼い主の行為を疑う。
D	環境	相模川のシンボルとなりうるカワラノギクの活用。 取組の拡大。
D	その他	神沢は自然度が高いので、保全すべき。
D	治水	最近では漁水も汚れてきた、何故。自然に戻してほしい。
D	利水	相模湖で毎年アオコが発生している。ダム湖の水質の浄化が必要。
D	利水	ダムと小倉橋間の水の流れを考えてもらいたい。
D	環境	自然いっぱいですごく良い。保全して欲しい。 民地等は30年位地主さんから借りてはいかがですか？
D	環境	環境のためにも、最大限ダムから放流したらどうか。
D	環境	河原でのバーベキュー(黒い石)焚火禁止を守らせる。
D	環境	相模川のアユを釣る、ころがし釣りの釣り針が残っててあぶない。 川遊びにも野鳥の足にくっつくからアユころがしは禁止にならないか。
D	環境	魚や虫がたくさんいるような川をつくるために、 今後どうしていくべきか考える。
D	環境	小倉橋ダム放流上流の水が流れていないのが不思議。
D	環境	できる限りダムの水を流すようにしてほしい。
D	その他	ダム～小倉橋の水の放流方法についての限定的な協議会をつくったらどうか。
D	その他	現在人間は、大量生産、大量消費、大量破壊で人間性を忘れた。
-	環境	残さなければならぬ良い環境があるという参加者の共通の認識が得られた。
その他	環境	上流区間は河川環境管理計画の区間外であるが、本日の巡視結果をもとに河川整備計画を取りまとめてゆくものと認識している。
その他	環境	相模川の河原でカワラノギクを増やすこととコスモスを植えることの違いを考えなければいけない。カワラノギクの最近縁種はモンゴルのゴビ砂漠に生息する種であり、自然史の面から考えると気候変動の中で大陸から分布を広げた祖先が、現在の日本列島ではごくわずかなところで生き延びてきたものである。一方でコスモスは都市化により、日本や世界中の都市が均質化し、多様性がなくなることの象徴的なものである。相模川におけるカワラノギクの保全はこのようなことを念頭において進めなければいけない。

第3回 相模川ふれあい巡視 H21.10.31

意見・提案は原文のまま記載してあります。
一部、読み取れない部分は「」としてあります。
ご発言で頂いた意見は、意見内容を要約して記載しています。

意見交換 グループ等	付箋紙の 色分け (カテゴリー)	意見内容
その他	環境	小倉橋上流の河原は樹林化しておらず、ダム ^の 放流頻度、放流量により樹林化を防ぐことを現地実験しているようなものである。一方で小倉橋の河原は不毛なところがあり、河原の昆虫、植物が生息しているのか確認することが必要である。小倉橋の河原はこのようなことを検討する材料となる。
その他	環境	11月22日に室内の懇談会を予定しており、そこで議論を深めてゆきたい。